

考えながら外国語を用いてやり取りできる児童の育成

～単元を中心となる言語活動につながる Small Talk の設定と指導の工夫～

前橋市立大和根小学校 星野 佐和子

I 主題設定の理由

新学習指導要領では、教科としての外国語を定め、言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を示している。また、本市では今年度から高学年において外国語を教科として年間70時間指導し、評価を行うことを定めている。

本校においては、高学年の児童が外国語の授業に意欲的に取り組んでいる。しかし、限定された条件でのコミュニケーションは図ることができるが、与えられた言語材料を暗記・羅列して話す場面がよく見られる。聞く場面であっても、相手の話を黙って聞いていることが多い。言語活動を行う際に必要な言語材料が限定され、それらを暗記・再現することに終始していることが課題であり、児童が考えながら本当の自分の思いを伝えたり、興味をもって相手の話を聞いたりすることにつながりにくい。

そこで本研究では、自分で考えながらやり取りできる児童を育成するために、やり取りを中心とした言語活動を授業に継続的に取り入れる。Small Talk を毎時間設定し、児童がお互いに自分の伝えたいことや相手に聞きたいことを繰り返しやり取りすることができるようにする（Small Talk とは、児童にとって身近な話題について、既習表現を繰り返し使用してその定着を図ったり、対話を続けるための基本的な表現の定着を図ったりする目的で、教師と児童、または児童同士で短い対話を行う活動である）。Small Talk の話題や扱う言語材料を、単元を中心となる言語活動につながるように設定し、指導を工夫することで、考えながら英語でやり取りできるようにする。

このような実践を行うことにより、少ない語彙の中からでも自分で言葉を選択し、何を言おうか、どう尋ねようかなど考えながらやり取りできるようになると考えた。既習・新出の表現を組み合わせることで、少しずつでも自分の言いたいことを考えながらやり取りできる児童の育成につながるであろう。自分自身のことを相手がかかってくれたり、相手の話を聞いて理解できるとうれしく思ったりするような目的・場面・状況等を設定し、言語活動に継続的に取り組ませることで、自分の力で考えながら相手とやり取りできる児童を育成できると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

考えながら外国語を用いてやり取りできる児童を育成するために、単元を中心となる言語活動につながる Small Talk を設定し、継続的に指導することが有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し


単元を中心となる言語活動につながる Small Talk を設定し、継続的に指導することで、目的・場面・状況等に応じて考えながらやり取りできるようになるであろう。

IV 実践内容

本研究では、小学校第5学年（児童数 31 名）の外国語において授業実践を行った。題材名は、「What do you have on Monday?」であり、曜日、教科、職業に関する表現を使うことで友だちの夢を叶えるための時間割を考えることを主たる内容として扱った。
見通し【単元の中心となる言語活動につながる Small Talk の設定と指導の工夫】

1 実践の概要

単元の中心となる言語活動と Small Talk につながりをもたせ、Small Talk で扱った表現を活用し考えながらやり取りできるようになるために、扱う話題・言語材料を単元指導計画に位置付け、継続的に指導した（図1）。

	主な学習活動及び指導の工夫	
1	○Small Talk (What's this? クイズ) 扱う表現：What's this? : It's~! ○曜日や教科などの言い方を指導する	<p>単元の中心となる言語活動へのつながり①</p> <p>What を使った表現 →What do I study?へ つながり</p> <p>※「対話を続けるための表現↓」を継続的に指導</p> 
2	○Small Talk (1週間で1番好きな曜日) 扱う表現：What day do you like? : I like Friday! ○外国の小学生と自分たちの学校生活の共通点や相違点に気付かせる	
3	○Small Talk (世界の子供たちの時間割) 扱う表現：What do you have? : We have ~(教科名). ○時間割の言い方を指導し、先生の夢の時間割を知る	
4	○Small Talk (将来の夢/いつかやってみたいこと) 扱う表現：I want to be~. : Why? :理由は~だから。 ○オリジナル時間割をつくる場を設定し、指導する	<p>つながり②</p> <p>“I want to be ~.” “Why?” →単元の中心となる言語活動で活用</p>
5 本時	○Small Talk (教科名・自分や友だちの好きな教科) 扱う表現：What subject do you like? : I like ~(教科名). ○単元の中心となる言語活動 ・友だちの将来の夢を聞き、それを叶えるための時間割を考え互いに提案し合う 目的 友だちの夢を叶えるための時間割を考える 場面 おすすめの教科をその場で考える 状況 友だちの夢を聞き、それに応じた時間割を提案する (目指す対話の例) : I want to be a doctor. : Why? : 理由は、~だから。What do I study? : How about math? : Why? : 理由は、~だから。	<p>つながり③</p> <p>Japanese, English, math などの教科名 →単元の中心となる言語活動で活用</p>

継続的な指導

つながりを活かし
考えながらやり取り

図1 単元指導計画

実際に本時で実践した Small Talk では、まず教師 (T) と児童全員 (S)、教師と代表児童 2 名 (S1、S2) がやり取りを行った (表 1)。その後児童同士 (児童 A、B) がペアで Small Talk を実践した (表 2)。教科を中心とした Small Talk を繰り返し設定し、中心となる言語活動で活用できるようつながりをもたせた。

表 1 教師と児童の Small Talk

T : Let's check today's your schedule.
What do you have today?
S : We have math, Japanese, social studies,
moral education, English...
T : OK. You have math, Japanese...
(教科を全て言い終わったら S1、S2 とやり取り)
S1, what subject do you like?
S1: I like English.
T : You like English. Why?
S1: 英語で話すのが好きだから。
T : すばらしい!
How about you, S2? What subject do you like?
S2: I like math.
T : You like math. Why?
S2: 計算が得意だから。
T : That's good!

表 2 児童同士の Small Talk

A: Hi. How are you?
B: I'm sleepy. How about you?
A: I'm sleepy, too.
What subject do you like?
B: I...
A: Sorry?
B: I like home economics.
A: Why?
B: 将来の夢がお菓子職人になりたいから。
What subject do you like?
A: I like English.
B: Why?
A: 単語とかを言うのが好きだから。OK. Nice talking to you.
B: Thank you.

2 結果と考察

単元を通して Small Talk で積み重ねてきた内容を、中心となる言語活動のやり取りで自然に活用する姿が見られた (図 2)。また、「友だちの夢が叶うような時間割が考えられてよかった。」「友だちの夢に合った教科を考えられた。」等、児童が目的・場面・状況等に応じてその場で考えながらやり取りした様子が見られた。

実践後のアンケートでは、7 割以上の児童が考えながらやり取りできたと回答した。中心となる言語活動につながる Small Talk を設定し、継続的に指導したことで、児童は Small Talk で扱った内容を活かし考えながらやり取りできるようになってきたと考えられる。



図 2 児童のやり取りの様子

V 研究のまとめ

1 研究の成果

- Small Talk と単元の中心となる言語活動につながりをもたせたことで、新出表現と Small Talk で扱った表現を組み合わせる自分の言いたいことを伝えたり、興味をもって相手の話を聞いたりしながらやり取りする姿が見られた。自分の本言いたいことと、英語での言い方を考えながら、やり取りする姿が見られた。

2 今後の課題

- 児童が知っている語彙や表現が少ないため、扱う言語材料を工夫する必要がある児童の興味・関心を考慮しながら Small Talk を設定・指導することが必要である。

VI 授業案

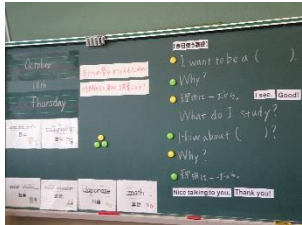
第5学年 単元名 「What do you have on Monday?」(本時は5/5)

本時のねらい 友だちの夢を叶えるための時間割を考え提案し合う活動を通し、その場で考えながらやり取りを行うことができる。

主な学習活動	指導の工夫	子供の姿・反応例
<p>1 ウォームアップをする</p>  <p>【英語であいさつする児童の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 慣れ親しんだフレーズであいさつや日にちの確認をすることで、児童が安心して学習に取り組めるようにする。 月、日、曜日を4線上に板書し、児童が見ながら書き写すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ How are you? の答えは自分のそれぞれの気持ちを述べている。 I' m happy! I' m tired. など
<p>2 Small Talk (Chat Time) (自分や友だちの好きな教科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任と児童で今日の時間割・好きな教科についてやり取りを行う。 ペアで好きな教科についてやり取りを行う。  <p>【Small Talk(Chat Time)の様子】</p>  <p>【対話を続けるための表現】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の話題である教科について、教師と児童全員・教師と代表児童がやり取りを行うことで、児童が対話を繰り返し聞くことができるようにする。 教師と代表児童のやり取りをふまえてペアでやり取りすることで、自信をもって自分の好きな教科とその理由を伝え合えるようにする。 『対話を続けるための表現』から適切な表現を自由に取り入れてやり取りするよう指導する。 理由は日本語で述べて良いこととし、児童がなぜその教科を好きなのかを根拠と共に伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の時間割を見ながら全員で教科名を発音している。 担任と代表児童で好きな教科についてやり取りをしている。 T: What subject do you like? S: I like math. T: Why? S: 計算をするのが得意だから。 ペアで Small Talk (Chat Time)に取り組んでいる。
<p>3 本時のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>● 友だちの夢を叶えるための、おすすめのオリジナル時間割を提案しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの4時間の学習内容を想起させ、目的・場面・状況等を確認しできるだけ児童から本時のめあてを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> この時間で何をするのかを捉え、めあてを考えている。
<p>4 教師と児童のデモンストレーションを見て、単</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師と児童のデモンストレーションを示し、どんなこと 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の夢を聞いて、『いるかの調教師』になる

元の中心となる言語の動の流れをつかむ。

- 単元の中心となる言語活動の流れをつかみ必要な言語材料を練習する。



【言語活動の流れを示した板書】

を話しているのか児童が推測できるようにする。

- デモンストレーションの内容を推測できた児童に発表させ板書し、中心となる言語活動の流れをつかめるようにする。
- 必要な言語材料の練習時間を確保し、児童が自信をもってやり取りできるよう配慮する。

には何を勉強したら良いか、考えている。

T: I want to be a dolphin trainer.
S: How about home economics?
T: Why?
S: えさの魚を用意するために、必要なことだと思うから。
T: I see! Thank you!

5 友だちの夢を聞き、おすすめの時間割を考え、提案する。

- 1 グループ3人とし、1人の夢を2人で聞き、オリジナルの時間割を考え、伝える。(1人およそ6分)
- Small Talk で使った表現を使いながらやり取りを行う。



【カードを貼る児童の様子】

- 代表児童が、できあがった時間割を紹介する。



【発表する児童の様子】

- Small Talk で扱った表現を活用するよう指導する。
- 友だちの夢を聞き、それを叶えるためにはどのような学習をしたらよいか考え提案すること、考えながらやり取りすることができるようにする。
- 教科カードを各自が持っているボードに貼りながらやり取りできるようにする。

評価項目

【外国語への慣れ親しみ】

友だちの夢を叶えるための時間割を考えながら、やり取りを行うことができる。

(行動観察・ふりかえりシート)

- 代表児童にできあがった時間割を紹介させ、本時で取り組んだ言語活動の内容を全体で共有できるようにする。

- 1人が夢を発表し、それを受けて2人がその夢を叶えるために学ぶべき教科を考え、伝えている。



【やり取りする児童の様子】

S1: I want to be a botanist!
S2: Why?
S1: 環境破壊がすすんでいるので、植物を増やしたいからです。
What do I study?
S3: How about science?
S1: Why?
S3: 植物について、くわしく勉強したほうがいいと思うから!
S1: I see!
※3人でやり取りを続ける。

6 本時の活動を振り返る



- よい内容の振り返りを紹介し、全体で共有する。
- 児童の言語活動の様子を称賛し、次時の意欲につなげる。

【できあがったボード】

- 本時を振り返り、カードに記入している。
- 代表児童の発表をみんなで聞き、本時を振り返っている。

